

彦とはすべれたおとこの意。てんひこは豊か、幸福を創造する者たちの集団である

TENHIKO



てんひこ

発行所 株式会社天彦産業 東大阪市長田西5丁目10番地 電話(06)744 1701(代)
編集発行責任者 余暇利用委員会 (山川隆男、茨木繁雄、富松純、新名幸江、中島て子)

昭和五十五年度

天彦産業

指針決定ノ

★GO・GO・五・運動

(経常利益五千万円

達成運動)

一、取引先との相互信頼のなかで「天彦の存在価値」を高めよう。

二、常に問題意識を持ち各自の課題を達成しよう。

三、業務と共に自分自身の進歩と成長を果たそう。

四、計画、実行、反省の繰返しから確実な仕事を生みだそう。

五、委員会活動を活発にし、生き生きとした輪を築げよう。

全社員から提出された、標語の中から、その意味あいを含めて、以上五原則に、決定致しました。

「GO・GO・五・運動」

達成を目指して

専務 樋口克彦



昭和五十五年度、経常利益五千万円達成、引いては昭和五十年代中に経常利益壹億円達成を目指し、その中で我々企業の活動、各個人の行動が社会的に意義ある位置付けが出来る様に、今回「GO・GO・五・運動」が実施される事になりました。

戦前の第一次創業期、戦争で全ての経済的基盤を失った第二次創業期、そして日本の歴史の中で初めての経験である飽和と成熟の時代、旧来の

やり方ではうまくいかないと言う問題が多すぎる時、部分的な工夫ではなく全体を変えなければならぬと言う新創業期、名付けて第三次創業期に際して、第一次、第二次の創業者の苦勞、精神を全て理解する事は、外部的には市場が違い、内部的には組織とその構成員が違ふ為に、甚だ困難で、不可能な註文であり、再びその道を進む事は非現実的であると思われれます。

我々は新しい環境の中で「天彦の存在価値」の追求を新しい発想をもってなさなければなりません。

経営理念と行動原則が取引先にメリットを与えられるか否か、それが競争他社に対して差のあるものかどうか等、我が天彦産業を構成している経営者、全社員が新しい創業者になる努力をなし、新しい考え方、新しい運営の仕方を生み出さなければならぬ。例えば自分達が始めた意思決定の仕方(幹部会)、自分達

の時に出来た新しい販売管理方式、企業に全員参加の積極的行動の一つとして自分達でスタートした委員会活動等、取引先との相互関係の中で、新しい共存共栄の道を求め、内部の構成員各自は、将来に獲得出来る物心両面の成果を描き、この運動を成功裡にやり遂げたいと思っております。我々はこの五原則をお題目に留めておく事なく、一企業の存立はそれを構成している経営者、社員の力だけでなく、それに関わる株主、取引先、金融機関、社員家族等、大きな基盤の上に成り立っている事を認識し、それら企業を取り巻く周囲が、我々に理解を示し、応援を頂ける様、企業の成長だけでなく、人間個人として埋れている能力の開発に努め、昭和五十五年度を将来への石礎として、着実に第一歩を踏み出そうではないですか。



站のうたに

見た商人道

社長 樋口 彦三郎

一九八〇年代は激動の時代とか、不透明、不確実性の時代とか言われており、本年度後半景気は下降線を辿る様相にて経営に細心の注意を払い種々の情報を把握し、万全を期し、努力いたさねばなりません。

この時に当り社員各位の発案により、「GO・GO・GO・運動」の五原則の指針を決め、全社員一丸となって頑張るって行こうとのこと、力強さを感じます。

去る三月末まで放映されたNHKの朝のドラマの「站のうた」を時々見ましたが、色々教えられ、考えさせられることが多くありました。

このドラマの主人公「あゆさん」が子供の頃からお母さんと共に苦勞し、女中奉公より大阪船場で倒産した若主人と結婚し、行商や移動市場をし

つゝ幼い時にお母さんより言われた一登臺湖の小站はいつまでも小站ではいけない、大站になれ！とのことを胸に

すっかりと秘め、行商当時知りあった人々や女中奉公当時の人々と共に合理性、自主性または義理人情の深さをもつて全員一丸となって努力し、遂に大站となり大阪船場に店を復興した筋書きでした。

今こそあゆさんのように全

社員が自主性をもち、協力しあい、「天彦の存在価値」を高めるため、可能性に挑戦しなくてはならない時かと存じます。

皆様の奮起をお願いいたします。

商都大阪で

働こう！

パート1

斉藤 安平

新卒は金の玉子と世間では重宝がられた時に、高校を卒業し、田舎でサラリーマンの生活に明け暮れて居りましたが、お盆や正月同級生が帰郷

し、早速同級会、同窓会で集会すると何時も都会と田舎の生活水準の差やう、東京弁の話の中から考えさせられる。

月給の差が感じられ乍ら、口に出して言訳する事も出来ず一人悩み続けました。

次男坊の自分は目的を持ち、誰にも負けず第二の人生のスタートと心に誓い、何時か機会がないかと日夜考えて参りました。

チャンスが訪れた年の瀬、昭和三十二年の年賀状を書いて居る時、これは競争する知人がいない関西で働こうと叔父さんの賀状の隅に一言、次男坊が狭い田舎で生涯を送る

よりは見知らぬ大阪で男一匹旗を上げるのが一番、同級生との戦いに勝つ「チャンス」と記したのであります。

年も明け、一週間の過ぎた頃一通の賀状を見てびっくり、大阪で生活するのなら、裸一つで出て来いと書かれておりました。賀状の内容を解釈し、親とも相談をし、了解を得て

即一月十一日大阪行の夜行列車の人となりました。

当時は大阪迄は十六時間の一人旅、これから先の不安を胸に長い夜汽車、時の過ぎるのが余りにも長く感じられた事が、今でも思い起こされます。

一步大阪の叔父さんの家に着くなり、実は現在は求職難の折、明日から早速職探しをやるうと言われ、毎日一通の履歴書を封筒に入れては、地理不安の都会の職安廻りを日課として一日一店で十日に一回の割りで廻り乍ら、午後は叔父さんの所の百姓の手伝いをして食べさせてもらいました。

月日の過ぎるのは早く、来阪二ヶ月後の三月中旬、信濃橋の職安から一通の葉書が配達され喜んで、指定の日安定所に行きそこで現在の「天彦産業」を紹介されました。

現在は廃止されましたが、当時の市電で北堀江で下車し、昔の所在地堀江ビルに到着してびっくり、拾数人の人が待

って居り、見知らぬ人に声を掛けても皆さん同じ紹介状を持って居り、これでは田舎の自分には勝ち目がないと勝手に決めつけ、叔父さんには二、三日の予定と言って、その日の夜行で新潟に帰えり、親に都会では求職難でどうしても仕事は出来ないと、頭を下げて許してもらいました。翌日の夕方大阪からの電報で面接二次試験があるからと、連絡をもらい、急ぎ、大阪に戻り、再び訪社し、その場で入社決定、即三十二年三月二十二日より旧天彦製作所に入社致しました。

入社してだんだん会社の内容を知ると……、苦勞の繰り返し、七転八回の都会でのサラリーマン生活が始まりました。

以下次号で



海外レポート

優秀作品決定

「シンガポール」に社員旅行と「シンガポール」四泊五日の旅に行っていました。その後社員全員に、レポートを書いてもらい、その中から次の三点が、優秀作品として、選ばれましたので発表致します。

ルポ・「買い物バスの

車窓からみた

シンガポール」

萩原利武

部屋割り完了したのが深夜の二時過ぎ(現地時間)。「どうせ寝る訳じゃない」と徹夜同様のドンチャン騒ぎに続いて、まさに錯乱状態のまま、二三日間見た「私のシンガポール」は、現地旅行社の「豪華バス」の車窓から道間見た、殆んど日本語のシンガポールであった。

それは十数ヶ国、二十数種の多民族、多言語の混在するこの国にあって、日本人旅行者の目的が、買物と観光であ

る限り、「共通語」である英語の、断片的な単語の羅列でこの国を巡る社会であり、一文法のない一国家であるといえよう。

三十八年の昔、大英帝国の植民地で軍港であったこの島が、山下奉文將軍の率いる銀輪部隊によって占領され、大日本帝國、南方資源島と改名された。私は、その詳や

る。そして、第二次大戦当時、中学生であった私にとって、一度たりとも徴兵制度と無縁の青春を過ごし、いま初老の

齢に達し始めて、初の海外旅行に求める感慨は、「平和ならばこそ」の感傷旅行以外の

何ものでもなかったのであるが、セントーサ島の片隅に設けられた、第二次大戦写真展

示館に足を向けた旅行者の多くが、四十代以上の同世代か

外人(英、豪)ばかりであったという事実、アフガン、

勢下に、風化された戦争の記憶が、色あせた写真の上に積ったホコリのように見えたのは、クリーンアンドグリーンを旗印に変わ行く、過去から未来、西洋文明と東洋文化、合理主義と精神主義のクロスロードとしてのシンガポールの幻影だったのであろうか。

◇ ◇

レポート記述に当って、欠かすことの出来ないものに、美しいシンガポールの街並みがある。何よりも驚きは、それが、国民性というより、強力な行政によって実現され、継続されているという事実である。

リー・クアンユー首相が、東京オリンピックで来日した折、チリ一つ落ちていない、

街並みに感銘して、これこそ発展の原動力だと考え、全土

美化キャンペーン開始の決断がなされたといわれるが、逆に、道路一本自由につくれない、民主主義と住民パワーの

仇花を知る日本人が、自らの

住む国の公害と腐敗、コンクリートジャングルの実相と比較して、エリを正すような思いに至ったのは、私ひとりではなかった筈である。

出発に当って私たちは、日本を先進国と規定し、シンガポールを中進国との認識の上でやって来た。勿論、GNPの比較にまつまでもなく、我が国とこの国との経済的落差

について語る必要もないところであろうが、一九八〇年代が、四次元の時代と呼ばれるような、精神文明の豊かさが

主題とされる時代と規定するならば、その限りでは、この国は「日本に追いつき」と

くに追い越したと言っても過言ではないのである。

買ひものバスに振り廻された三日間、車窓から見たシンガポールは、起伏の少ない地形もあって、「緑の海に浮かぶ不夜城」という思いであっ

た。

そのせいであろうか、市中を走る自動車、バスに、古いベントやワーゲンが目立った。バスガイドの周女史によれば、最近では、輸入比率で日本製が一位となり、やがて日本車にとって代られるだろうということであったが、古いエンジンでも負担の少ない地形であろうか、日本のようなピカピカの新車の洪水に慣れた目にとって緑の谷間に行き交う車の列は、シックなヨーロッパ調の色彩が調和しており、原色の、とりわけ真赤な色彩の車が少ないのが印象的であった。緑の海に原色は似合わないとして、意識的に敬遠されているとしたら、グリーンアンドクリーン政策は、単に東京オリンピックに学んだというより、長いイギリスの統治の歴史の上に、東洋の美を結合させたクロスロードとしてとらえるべきである。

◇ ◇

帰阪后、このレポートを書くに当り、私は本町の国際ビ

ル14Fにあるシンガポール総領事館へ足を運んで、ある一つの資料を得ようとしたが、時間的制約があつて果すことが出来なかった。

それは、この国の労働人口がどのように構成されているかということであつたが、資料がなくて乱暴な推測を

する。それは、三時期に、第三次産業の占める比率が多いのではないだろうか。

日本も既に79年で、第三次産業労働人口が全労働人口の55%を超えたと言われているが、シンガポールでの比率は、はるかにそれを上廻っているのではないだろうか。しかも、

第一次産業といえば農業やゴム園、第二次産業を指しては、造船や石油加工など、第三次産業は三つの産業のうち

を占めている。マンモスビル、他は、強いてあげれば、発電所と沖合いに浮かぶ石油コンビナート位のものであり、また、第二次産業の多くも、

ジョン工業地区に集約された、職住接近型の軽加工工業であ

り、家賃ついで外食することの好きな国民性とともに、国民総ホワイトカラー代による

「手を汚すことの嫌い」な階層が急増して、「緑の海に浮かぶ不夜城」と化しているのではないかと思う。

それは、この国に投資されている産業資本の九〇パーセント近くが、ヨーロッパや日本を主とする外国資本であつて、地元の華僑資本のそれが十一パーセント強しかないという現実とともに、この

国の住民の75%が中国人であり、ベトナムからカンボジアへの共産化に続く、タイ、マレーシアのゲリラ活動などに

よる、一帯を定めた反共主義勢力と決して無縁ではないように思える。

それ以上に私は、日本と日本人が、この国を単に観光と買物の対象として選ぶのではなく、ASEAN五ヶ国の盟主として位置づけて、アジア

における日本の良き友人として、友好のきづなを深めるこ

とが必要であり、謙虚に学ぶことの必要さを痛感すべきである。

ともあれ、従順なマレー人と意欲に溢れる中国系住民の結合したこの国の現在が、強力な指導者に大きく結果されて、スコールで色づく緑草の

ように生き生きしていることは、まぎれもない事実であり、市民のコンセンサスを基調に強引に押しすすめられている

「近代化」の政策が一定のレベルに達した時、「超無貧国」のこの国の未来は、どのような方向を求めて進むのであろうか。それは、東洋のユダヤとも言うべき華僑の民族性と無縁ではないにしても、同じような無資源、加工生産国で

ありながら、単一民族で形成されるわが国にとって、極めて注目しなければならない方向であることは確かである。

以上

シンガポールの社内旅行に参加して

沖 朝子

広さは、日本の淡路島ぐらいで、面積は、五八一平方キロメートルです。

中央部が丘のように高くなつていて、海岸線まで坂道が多いのが特色らしく緑の多い点では、ずばぬけているようです。

人口、約二二〇万人、多民族国家で世界中のあらゆる民族が集合して、アラブ系、インド系、インドネシア系加えて、ヨーロッパ系と混合民族化していますが、中心となっているのは、やはり中国系の人々です。

気候、一年中気温の差はあまりなく、二七・八度と一定しており、湿度が少ないため暑くてもわりあい快適のようです。

出入国と税関の検査も思ったよりノーチェックでした。まず、入国して感じた事は

熱気がただよっていました。

シンガポール川の河口、エリザベス遊歩道の対岸にハメートル程の彫像が立っていて、マリオン像と言って頭は、ライオン、尾部は、魚からなつて想像上の生物らしいですが、これについては色々と言われているようです。

このシンガポールが独立国となつたのは、一九六五年八月九日で、マレーシア連邦から完全独立を宣言し、リーカンユー首相の指導のもとに、世界の十字路として貿易の中心地として、独自の道を進んでいます。

自分達の国を作りあげるために全員がどんなに努力しているかということがわかりました。

街全体を一つの庭園と考えて、個人の所有している植木一本の植え替えや伐採にも、政府の許可がいるほどです。

もちろん、たばこの吸いがらを街路に捨てたりすると罰金をとられ、キーブ・クリン

運動が国全体にすめられて
いる。

産業としては、これといっ
た自国産業はなく、国花であ
る蘭の栽培と、ワニ皮製品ぐ
らいて、とくに蘭栽培で国際
的にも有明らしく、植物園、
マウントフェーバー、タイガ
ーバームガーデンには、一年
中何千種類もの蘭がその優雅
な花とかおりをただよわせ、
訪れる人々の称賛をあげてい
るようです。

（めし加工、すずの加工
の過程を説明し、その出来栄、

シン、一島観光には、高台
から見る青い海に面し、緑の
熱帯植物に囲まれた白い建物
は、そのままごとな景色を
作りだして、澄みきった空の
青さ、海のすばらしかったと
、道行く人々は、それぞれの
風俗、習慣をそのままに残
しているかのように、中国服
をまこった人、ろうけつ染め
のマレー服の人々、頭にター
バンをまいたインドの人々、

いたるところで目をみはるほ
ど、ホテル建設、市街地の再
開発がいたるところで行なわ
れていました。

市内を走るトライショウ（
自転車）

シンガポール市民の憩いの
場となっている様ですが、食
べ物天国、裸電球に照らされ
た屋台、ちょっと不衛生が感
じはしましたが、何んと「ハ
エ」一匹飛んで来なかったの
はびっくりしました。

ジョホール陸橋を渡りマレ
ーシアへ入国し、サルカン王
宮と回教寺院へ、教徒のお祈
りが始まるうとしておりまし
た。

国際色豊かな多民族国家、
シンガポールと北部のジョホ
ール水道をはさんで、陸橋で
結ばれている。マレーシアの
すばらしい旅、私の生涯の一
頁として心に残る事でしょう。

シンガポールへの 旅を終えて……

武田 恒夫

私にとって初めての海外旅
行、初めての飛行機の旅でし
た。

初めて乗った飛行機はどうだ
った？ じつとよく聞かれるん
です。もともとエレベーターの
苦手な私ですから、良かった
と聞かれるのは酷な話で飛行
中とはかく離着陸の時なん
てエレベーターに乗っている
時のような状態が何分も続く
訳ですから当然生きた心地が

しなく悪戦苦闘の連続でした。
やっとの思いで着陸して一歩
機内から出た時に初めて「外
国なんだ」って痛感しました。
それは日本にはないあの異様
な雰囲気、蒸し暑さがそう感
じさせたのだと思います。

さすがは赤道直下の島です。

シンガポールという、やは
りショッピングの街という
のが一番の印象です。どこへ
行っても買い物をするとこ

かり、それに意外と都会的な
ので驚きました。もっと自然
が多いとばかり思っていたの
ですけれど、意外とそうでな
いのでちょっと戸惑った感じ
です。太陽のサンサンと輝く
日中は、「緑の街」いざ日が
沈み、回りが暗くなると外灯
の色で映し出される「オレン
ジの街」ほんに夜、外を歩い
てみると気味が悪くなるほど
黄色がかっているんです。で
も機内から見ると限りでは、オ
レンジの夜景もなかなか乙な
ものでした。

言葉に不安……？

旅行に出る前は言葉に多少不
安があったんです。シンガポ
ールは英語も通じるから安心
してくれといわれても、本人
自身がよく英語を話すことが
出来なかったらどうしようも
ないし、また日本語がどこで
も通じるようなら、海外旅行
している気分になれないし、
そういうところが不安でした。
でも目一杯の、又わかるだけ
の英語を使ったら、またおも

しろい事に、なんとか通じる
わけです。それからというも
の、自信が付きまして、関係
もないのに他人の会話に参加
してみたりしていたんです。

これだったら、一人歩きして
も大丈夫と違ふかなあと思
って、一人でタクシーにさっ
そうと乗り込んで走り出した
まではよかったんだけど、
私が一生懸命英語で話しかけ
るんですけどまったく反応な
し、それでもわかるだけの英
語で話しかけるのですけどダ
メなんです。

それが……それがそのタク
シーの運転手、英語が全く話
せないらしいんです。それか
ら私は私で日本語で「ワー
ー、運転手は又運転手で知らない
言葉で「ワー、仕方なく万
国共通の身振り手振りで示す
んだけど、これがまた反応な
し、あぐくのはてには、とん
でもないとこに連れていか
れそうになり、あわてて信号
待ちの間に「チップノー」と
いいながら飛び降りて歩いて



……次男です。言葉がわかる……「おん」とこわい……

「いろいろ観光してみ、海にいた時間が少なかった事はとても残念です。あれだけきれいな海だから、よほど夕陽がきれいなんだろうなあって楽しみにしていたんです。

そのきれいな海に入らなかった……残念です。やっぱり……海………うのは冗談ですけどやはりもっと海でのんびりしたかったなあ。

最後にシンガポールは、とてもきれいな島です。最初の海外旅行でこんなきれいなきれいなところへ来れたなんて………ラッキーです。

でもシンガポールについての勉強が不足していた事がとても残念です。

今度、海外旅行をする時にはペラペラの英語でも……、あるいはフランス語でも……。

女子社員から

見た我社の

営業マン諸氏…

斉藤課長

斉藤課長の事を一言で言えば、「おとうさん」といった感じです。

あまり社内にはいらっしやいませんで、私達といっしょにいる時間は限られています。朝早く出勤してお茶を沸かして………

………違いたらない女子社員にとっては、頭の上らない事ばかりです。又仕事に対しては、熱心で時間が無い時などは、家にまで持ち帰ったり、いつも大変だなあと思っています。

最後に娘達から一言「一日も早く薬室さんは廃業して下さいねー」。

樋口課長

友夫氏は、仕事に対してはすごく厳しい人です。

でも……、少しでも仕事を離れると、今までとは違ってか

わり、とても30歳とは思えない、サゲや行動をとり、いつもみならずは、感心の目で兄ら………本心に専務と兄弟な………

………しかし、そういうところが三枚目的、みんなから愛されているのではないのでしょうか。友夫氏へ一言「早く、若くて、かわいらしい、ストの大きいお嫁さんをもつて、人間らしい所で、幸せに暮して下さいねー」。

最後に友夫氏の別名「トモリン」もよろしく。

萩原課長代理

年齢未だ不明

萩原氏の第一印象は、気難しそうで、とても私達の方からは話しかけにくいといった感じでしたが………

実は、だれ一人として笑わないジョークをしつこく言い、「笑ってもらえないのだから止めとけば」と言っても、又違ったジョークを言う。それに本人のプロフィールを取れ

ば、家族の所を、妻一人、跡継一人、女中見習二人。

特技では、作曲（カラオケで別の曲を歌う）などと書いている。萩原氏の歌を聞いた事のある人は、よく知っていると思いますが……、ようするに世間で言う音痴なんです。萩原氏とお酒を飲みに行く場合は、耳栓をご持参して下さい。

山川隆男氏

年齢は26才（本人は、25才だと思ひ込んでいます。）家に帰ればよき夫？よき父だと自分では言っていますが、本当のところはどうでしょうか？

会社での山川氏は人一倍よく口も手も足も動き、よく仕事をされる方だと、いつも感心しています。まして営業に必要な話術は、とても私達には、真似の出来ないほどのので、勉強の為に一度講習会でもしていたかどうかと思っ

山川さん、これからも奥さんと大介君を大事にしてあげて下さい。

武田恒夫氏

武田氏は来年成人式を向かえる、若手のホープさん。学生時代から野球で鍛えた、体と根性で、毎日、配達業務や事務業務にガンバッテいます。一見、見た感じでは、おとなしそうですが……、なかなかのわんぱくもの、現場から営業へ移り覚えなければいけない事、他にも勉強しなければいけない事が、沢山有ると思います。よき先輩に教わり、一日も早く他の営業マンと同様に活躍して下さい。

ただし、悪い事は先輩には教わらず、今まで通り、元気で素直な人でいて下さい。

三人娘より



うかえて見れば、昭和

手は口と

業務部長 樋口 健夫

社長夫人

私の釣り日記

竹 森 勝

七月五日、私の待っていた第一土曜日である。昨年の暮会社にとっても私にとっても思いがけない大病をして、大変皆さんにご迷惑をかけてしまった。

その日はさておき、魚釣りに行くために、私がいつも行っている乗合船に電話予約をしておいたのである。

話は別になるが、私が魚釣りに行く時は、休暇ではあるが、女房、子供には関係の無い日である。したがって何事も自分の事は自分でする事になっている。私が始めにするのは、釣道具の準備である。次に忘れてはならない大切な弁当。四日の晩、自分でおむすびを三ヶ作った。約一年に近しい久しぶりの釣りのため、気持ちが高揚につき、なかなか眠れず、眠りについたのは十一時頃であった。そして目が覚めたのは翌朝二時過ぎであ

った。今さら寝直しも出来ず色々蒲団の中で、今日は船のすわる場所は？持っていく竿は？仕掛けは……、等と考

えているうちに三時半になった。その時大事な事を忘れていたのに気付いたのである。それは自分の酒の肴である。

急いで飛び起き、自分で玉子焼を作り、お茶とリンゴを持

ち四時十分頃我家を出て、な

んばへ向った。そして、五時三分船和歌山行き準急に乗っ

たのである。みさき公園で乗り換えるので、一番前の車輛に行くと、すでに先客が大きなクーラーを持って居眠りをしていて。同じ船の客であらう、見たことのある人だったので挨拶はしておいた。電車は停車駅ごとに顔見知りの客ばかりを乗せるのであった。六時二十分頃深日港に着くと急いで自動販売機へ走り、ワンカップやビールを買い、今度は釣具屋へ走り水を買って船着場へ走っていくのである。何故走るのかというと、

魚がよく釣れ、他の客との迷惑の少ない自分の好きな場所を確保するためである。

船は六時四十分出発、天候は曇り後雨、本当に久しぶりの釣りである。海は穏やか好きな場所にすわり、両横を見、そして自信がわいてきたのである。しかし、それもつかの間、結果は見かけと運に

しまった。上手である。運もあるが条件は同じである。自分が好んで決めた場所で釣けたのである。釣った魚は三十五センチから四十センチぐら

いの諸が三匹、ガシラ三十二匹数の上では負けてはいないが、私が負けた相手は数は解らないが三十五センチ位のイシモチそれに一キロ級の大ダコを釣ったのである。

時間は何時の間にか過ぎていき、釣りながらワンカップビールをしておにぎりを食べ

一時半頃、エサはきれ、竿は地球を釣る私の時間は終わった。乗合船、同じ条件で知らない者同志が船に乗った時は、自分の腕次第である。沢山釣っても五千元、釣れなくても五千元なのである。

それにしても船頭は本当に商売とはいえ親切である。客同志が糸をもつらせると、すぐに来て直してくれる。私達では時間のかかる事も早く直してくれるのである。心から感謝の言葉が出てくる。

以前乗った時の事であるが友達と二人で行った初めての時、隣りに乗り合せた大阪から来たという六十歳ぐらいいたのかすでにご気げんであった。ところが釣り始めるとあちで糸をもつらせ、こちで引っかけ、いい加減酔っているから切れた針も結び事が出来ず、"兄ちゃんスマンけど……"と言うのである。年も取っているのに親切にしてあげる。二度、三度手伝っていると船頭はすぐに見つけてすぐに直してくれるのであるが、"仏の顔も二度三度"と

いうように、こちら友達と一諸にいい加減頭に来てしまい、船頭もついにおこってしまったのである。"こんなに迷惑ばかりかけるなら、今度から酒を飲んで来たら乗せない。"と言い、"兄ちゃん、こんな酔っぱらい相手にするな。ほっといたれ。"高い金払って乗ってもらっているのに兄ちゃん釣りにならんやんけ、相手にすな。"と言ったのである。一人の釣りではない。二十五、六人の客が乗っているのである。その中の一人のために何人もの釣り客が迷惑した訳である。

船を下りる時船頭は私に、"兄ちゃん済まんなんだなあ、気悪うせんと又来てや。"と言いい酔っぱらいの老人には"何んば馴染やからいうても、これだけ酔って来たらこれからは絶対乗せんからそのつもりで来い。銭なんかいらんわい。どうせ一匹も釣ってへんやろ。早よ顔でも洗って帰れや。"と言ったのを覚えてい

主君并で、他の船も同じく
 九二七 一三四四
 三〇七九



会社より、家が近いので天彦社員になる以前に、時々顔を合
わせた事が有りました。入社時には、弟と歩いていると、
ボーイフレンドと間違われたそうです。

委員会だより

我が社では、社員全員が、

次に紹介するどれかの委員会

に属しています。みんなが、

委員会活動を通じて、生き生

き活動を通じて、社員を楽

にしたいと願っています。

尚◎印が委員長です。

自己啓発委員会

◎萩原利武 斉藤安平

樋口友夫 富松 純

池口敏正

この委員会では、委員会の活動を通じて、社員一人一人の自己啓発を促進し、自己啓発の成果を会社に還元することを目的として、毎月、社員一人一人の自己啓発の進捗状況を調査し、その結果を会社に報告し、必要に応じて指導を行います。また、毎月、社員一人一人の自己啓発の成果を会社に報告し、必要に応じて指導を行います。また、毎月、社員一人一人の自己啓発の成果を会社に報告し、必要に応じて指導を行います。

三連環のケンケンガクガクの討論を重ねて、委員同志の自己批判、相互批判を行って来ました。

その結果、「自己啓発」とは、委員ひとりひとりが、まず自分の能力を引き出し、育てるために、地道な活動をする必要があると認識した。

「自分」とは単純明快、熱烈学習ノ「我々こそナウイジャン」いや、野郎ばかりだから「ナウイヤンズ」とばかり次のような目的と役割りをきめて、さらに活動を強めることになりました。

まず、一朝礼一の運営に当り、毎朝の内容を一行朝礼録として、毎朝一記録、月に一度投票で一月間朝礼大賞」を定めます。

また、七月の「GO・GO・五・運動」を軸にしたテーマについて、八月には、テーマを「私の体験」と定めて、各自の人生経験を幅広いテーマに、朝礼時に語っていただく

くことになりました。

問題の「貸出図書」については、書棚、リストの管理を樋口、富松両委員が行い、色テープを貼って分類しやすくするほか、月に一度、補充リストを発行します。

委員一人が月一冊の本を読み、読後感を月末に提出。

その内容をコピーしてみなさんに紹介することになり、その紹介作業を斉藤委員と新しく参加された池口委員にお願いすることになりました。

これを切掛けに、折角設置された「貸出図書制度」をさらに一層活用されることを特にお願い致します。

体力向上委員会

◎武田恒夫 樋口友夫

茨木繁雄 竹森 勝

岩崎哲夫 新名幸江

我が体力向上委員会は、読んで字の如く一人一人の体力の向上をはかり、なおかつ、健全な身体作りに協力する次

第です。

我が委員は、みなスポーツマンばかり、第一回ボーリング大会に於いては、優勝という輝かしい栄光と共に、一位から七位までに入るといふ、みなそれぞれが達人ぞろいの体力向上委員会であります。雨の日も風の日も行なわれる、毎朝のラジオ体操は、一日の始まりとしての活力源となるものと信じて、続けております。

次に毎月、階段のところに掲示してあります、健康道場、その月の状況に応じて委員全員で考えぬいた末の標語であります。

その標語に基づき、一人一人の健康管理に期待します。最後に、これから先、やってほしい事など、また、健康管理の方法など、どしどし、申し出て下さい。

余暇利用委員会

◎山川隆男 茨木繁雄

富松 純 新名幸江

中島文子

我々の委員会活動としてはこの社内報の、編集、発行やその他、社内での行事の運営（主に、宴会の幹事等）に協力しています。

社員のみなが、如に、余った時間を、有意義に過ごせるか、そのお手伝いをしたいと思っています。

余暇と簡単に言っても、いそがしく働いて、そして生きた時間こそ、余暇であり、何もすることがなく、ただ、ぼんやりとしていたのでは、有意義な時間は過ぎません。我々の目標は、この時間というものを大切に、如に余暇をエンジョイするかを、みなさん達と共に考えて、それを実行していくつもりです。



安全美化委員会

◎竹森 勝 齊藤安平

樋口吉久 池 田三

我々の委員会には以上のよう
な、少ないメンバーで、運営
しております。社内を、より
安全に、より美しくしていく
様、委員会会議で次のような
事項を決めましたので、社員
の方々の協力を願います。

一、そうじ当番について

朝のそうじは、社員みんな
が、当番制にて、毎日交替で
行なわれています。女子社員
だけでなく、男子社員も、当
番の日には、すこしでも、朝
早く出社して、一日が快適に
過ごせる様にして下さい。

二、空カン等の処理について

自分が飲んだ物であれば、
当然、後始末は自分でやる。

事務室、車の中等、ゴミ箱は
必ず、自分で処理をして下さ
い。守れない人には敬重の心
分を考えております。

三、制服の統一について

すでに、統一の物が購入さ
れ全員に渡っていると思いま
すので着用して下さい。

四、社内の花について

現在、女子社員の方々と買
つてもらっている事を知り、
我々としては、やはりみんな
が協力をしなければと思い、
募金箱を設置致しましたので
何卒、ご協力をお願い致しま
す。

ケチケチ委員会

◎樋口吉久 萩原利武

池口敏正 沖 朝子

南 恵子

私達は、委員長を初めとし
て、社内でも、口うるさく思
われている五人です。

ケチケチ委員会としては、

私達の周りにある、無駄だと
思う事、まだまだ節約出来る
と思ふ事、色々な立場から
考え、話し合い、少しでも節
減出来るよう心がけていき
たいと思っています。

6月18日に経費の節約に関

する、アンケートにご協力し
て頂きありがとうございます
た。

私達委員会としては、色々と
検討した結果、まず第一歩と
しまして、一番身近なそして
一番多くご意見を頂いた、「通
信費の節約」を、7月から9
月にかけての期間目標と定め
ましたので、少しでも節約出
来るよう、みなさんが、得意
先に出かける時に「納品書、
その他の書類」を持参するよ
う、協力をお願い致します。

又色々な節約する事も大切
ですが、仕事の「ムダ」をな
くす事も大切です。

電話応対委員会

◎中島文子 南 恵子

山川隆男 武田恒夫

岩崎哲夫

一口に電話応対といっても
電話ばかりに、重点をおくの
ではなく、来客に対しての接
待、又、こちらから他社へ訪
問する時の礼儀等、つまり

※(団体の部)

一位 体力向上委員会

二位 自己啓発委員会

三位 安全美化委員会

四位 余暇利用委員会

五位 電話応対委員会

六位 ケチケチ委員会

人と人とのふれあいを大切
にし、そういった面にも、気
を配らなければならないと思
います。「挨拶」というのも
その一つですが、基礎的な事
が、電話応対委員会である私
達を含め、以外に忘れられて
いました。そこで「親しき仲
にも礼儀あり、朝夕の挨拶は
しっかりと」という標語も、
決まりましたので、これに基
づいて基礎からやっていき
たいと思います。

第一回

天彦杯争奪ボウル

体力向上委員会が優勝

さる五月三十一日(土)放

出ボウルで開催されたボウリ
ング大会は、激しい雨音の中
珍プレーの続出で、楽しさの

中にも壮烈な戦いが繰り広げ
られた。結果は、委員会対抗

の団体の部で体力向上委員会
が、個人の部で樋口友夫氏が
優勝を手中にした。総合成績
は以下の通り。

※(個人の部)

一位 樋口友 二位 岩崎

三位 新名 BB 樋口吉

ラッキー7賞 竹森

最多ガーター賞 南・中島

今回のハンデは第一回目で各
自の実力が不明の為、年令別
男女別に設定したが、今回は
今回を参考に以下の通り設定
した。

専務10、部長70、斉藤35、樋
口友0、萩原45、山川50、樋
口吉70、茨木15、武田10、池
口10、岩崎5、沖80、南70、
新名35、中島70。

(TH記)

私の少年期

(不思議な「パンツ」)

樋口 友夫

澄みきった空と、桜吹雪の中を胸張って、真新しい服と真新しいランドセルで小学校の校門をくぐり、めでたく入学式に……。と言いたるところだが、母の手縫いの半ズボン(実際には七分)と豚皮のランドセル。それでもさすがに入学式であったことには違いなかった。

ところで、私の兄姉の構成を説明しておかないと理解していただけないが、三兄、二姉の多産型構成である。

この様な構成からして、孫父のランドセルは常識であったのが当時かというところ、そうでもなく、時代は戦後の成長期に入っており、大半の同級生は真新しい牛皮のランドセルをもっていたのである。しかし、兄姉たちは、「お前が最も恵まれていたやないか。」



それ、母の手縫いであらうと新調であることに違いがないからだそうだ。全く今では考えられない会話である。

たゞ、私にも言い分があった。外観については正にその通りであったかもしれないが、その中身については、我家にも行き過ぎがあったと訴えたい。いや、むしろ貴重な体験に感謝をすべきかもしれない。

その中身とは、「パンツ」である。

当時の「パンツ」というのはブリーフよりサル又が一般的であったが、私は当時からブリーフに近いものを身に付けていた。母の先づ目があった

たのか、今日ではブリーフが主流になっており、流行の最先端を走って……。、といったのだが、この事は後で全く打ち消されたのである。

当時、授業中に小用をもよおし、トイレに駆け込み、ズボンのボタンを外し、「パンツ」の重ね目に手を入れ、口を足そうとしたが……。

間に合わず「ジャーノ」

恥しくてあわてて個室に入りビチャビチャの「パンツ」を

処理しようとしたその時、なんとそれは重ね目などあるはずがない、まさに女性用ではないか。しかも、後で聞いた話であるが、次姉のお古だ

ったそうだ。

そんなことで

らう授業に

れず、泣く泣

く家に帰った

ことがあった。

ほんとうに身

にしてみた、少

年期のスター

トであった。

身だしなみ

新名 幸江

日常の身だしなみは、その人柄を表わします。先ず第一に清潔な身体、次に端正な服装が必要であります。洗顔、うがい、丁寧な、とくに爪は手入れを忘れないように気をつけ、女性の髪の手入れと同じように、男性の「ひげ」を。そのことも、日課とするのが常識になっていきます。

身だしなみとおしゃれは、区別することもできますが、今の時勢では、互いに、両方をうまくかみ合わせて、わざとらしさのない、分相応のつ

りあいを考えて、相手に不快さを感じさせないようにすることだと思っています。

衣服のはころびや、ボタンのとれたのは見苦しく、衣服のしわも伸ばしておくべきです。背広服のボタンは、客の前に出る時は、少なくとも一つはかけましょう。

化粧は目立たない程度がよく、

また、人前での化粧直しは、しない方がよいとされています。

身だしなみは、その人の性別、年齢、職業、地位、身分によって、それぞれ違います。学生の制服姿が、美しく見えるのも、学生としてのその人にある方が、こう言われたこと。ダイヤの指輪はふつりあいでも、その人にふさわしくなければ、そのものの価値を下げるだけではなく、その人の値打ちも下げます。

編集後記

社内報第二号(夏の巻)の完成です。今回は原稿もたくさん集まり、この様な部数の多いものになりました。

次号よりは、何かテーマを決めて、社外からの投稿も、お待ちしておりますので、宜しくお願い致します。